

[特集]

松蔭病院の身体合併症病棟が、 「身体拘束をやめる」

ことができた理由を 根ほり葉ほり聞いてみた



誰だって身体拘束をやめたいと思っている。

けれども、その手立てがわからない。

それに身体拘束をやめようと現場で声を上げるのは容易ではない。

文化や慣習を変えられそうな時、他人から反発を受けるのは当然だからだ。

「チューブが抜かれたらどうする」「転んでケガをしたら家族から訴えられる」「誰が責任を取るの」と。

愛知県名古屋市中川区にある医療法人^{まつかけ}生会松蔭病院の身体合併症病棟では、
認定看護師の貝田博之さんが主導となって「身体拘束をやめる」という方向に向かって進み、
約1年かけて実現することができたという。

この特集では、松蔭病院スタッフの声を拾う形で、
どのようにしてそれが可能となったのか、ターニングポイントはどこにあったのか、など、
できるだけ細かな点に迫りたいと思う。